

大木工藝（大津市）
大木 武彦社長 ㊦

樹脂加工から事業転換し、炭素を使った新製品を次々に生み出している「大木工藝」（大津市）。大木武彦社長（66）に、会社設立からの経緯やアイデアを商品化する秘訣などを聞いた。

（聞き手・矢野彰）

岡山県吉備郡の出身で、高

卒業後、国鉄（当時）に入

ったが、生涯賃金など「将来

が見えていない」ことに悩んだ。

「人と同じ人生を歩むのは嫌

だ」と思い、23歳で退職、知

人を頼って京都市内に移り住

23日経済面からの続き

み、塗料の卸問屋に就職した。

工芸品の製造や文化財の補

修に使われる樹脂の卸売り

で、約3年間勤めた後、取引

先の下請けとして25歳で独立

でもこなしたが、27歳の頃、

樹脂を削る際の粉じんであレ

ルギー症状が出るようになって

た。健康を害さないようにと

新しい事業を考え、絵画

の表面を樹脂で覆って半永久

的に劣化を防ぐ加工を始める

ことにした。

絵の劣化半永久的に防ぐ

加工した絵画が贈答用とし

て大手百貨店で扱われたほ

か、「卒業記念に」と子ども

の絵の加工も受注するようにな

った。年間売上高は1億5

000万円に達し、年度末な

どは連日、徹夜するほど忙し

かった。

*近畿

北 南 西 東 会社



炭素を素材に、次々と新商品を生み出している大木社長（大津市で）

モ

1970年4月、大津市で創業。合成樹脂を用いたさまざまな加工を行い、現在は炭素を素材にした医療器具や環境関連製品の開発を主に手がける。社員13人（パート、アルバイト含む）。資本金6000万円、売上高3億5000万円（2011年9月期）。